

平成27年度 南アルプス市立白根御勅使中学校 後期学校関係者評価書

1 全体評価

職員による自己評価では、全34項目のうち、32項目でA判定（おおむね良好）2項目でB判定（工夫改善の余地がある）となった。前期の評価ではB判定が1項目のみであったので、若干の評価の低下が認められる。各項目の評価の平均値をみても、下がっている項目がいくつかある。同様の傾向が保護者へのアンケート結果からも伺える。このことから、全体的には、引き続き良好な学校教育が進められていると判断できるが、前期に比べて低下傾向にある可能性があるので、注意が必要である。自己評価書にある改善に向けての取組を積極的に進めていただきたい。

個別に見てみると、B判定となった2項目のうち、No.26「生徒は適切な言葉遣いで会話ができているか」という項目は、前期もB判定で改善が進んでいないので、来年度に向けて改善の取組を強化する必要がある。もう一つのB判定であるNo.30「教育方針や学校の様子を、各種たよりやHPでわかりやすく保護者に伝えているか」という項目は、その立場にない職員の回答も入っていることから、若干の数的考慮が必要かと思われるが、他の項目に比べて評価が低いことには変わりはないので、それぞれの立場でできる取り組みに力を入れてもらいたい。

保護者へのアンケートで、No.3とNo.7の授業に関する評価と、No.17の施設に関する評価に比較的顕著な低下がみられる。施設の問題については、校舎の工事が多く行われ、今後もしばらくこの状況が続くので、評価の低下はやむを得ない面がある。できるだけ教育環境に影響が少なくなるよう配慮をしていただきたい。授業の問題については、評価低下の原因と考えられる事柄を学校側でも把握し、すでに改善に向けて取り組んでいるので、最優先課題の一つとして今後も最大の努力を払っていただきたい。

生徒へのアンケートでは、評価は前期と大きく変化しているところはなく、依然、良好な状況と感じている生徒が多いと判断できる。しかし、前期評価でも指摘があったように、「1」や「2」と答えている生徒があることを重くとらえていただき、個別の対応も進めていただきたい。

2 評価委員会で話し合われたこと、意見等

◎ 全般的なことについて

- ◇ 評価数値が3.0未満になっている項目については、説明や記述にあったように改善の取組をしっかり進めてもらいたい。また、3.0以上の項目であっても、数値が下がっているものがあるということなので、必要に応じて取組を進めてほしい。我々の企業でもPDCAサイクルを取り入れている。学校でも同じように改善できるといいと思う。
- ◇ 先日初詣に行ったところ、生徒会で取り組んでいるらしい御勅使中学校の大きな絵馬が見られた。情操教育という面から、とても評価できる内容だと感じた。
- ◇ 学校の様子は、前期に引き続き、落ち着いていると感じる。生徒も先生方も頑張ってくれている。休日もなく指導していただいております、ありがたいと思う。

- ◇ 先日、桃源文化ホールで成人式があつて、この場で嬉しい出来事があつた。式典が終わって表の芝生ひろばにごみが残されていたが、3人の男子成人がこれをこっそり拾ってきれいにしていて。職員が名前を聞いたが答えず、出身校を聞いたらそのうちの一人は御勅使中学校の出身者だということがわかつた。成人の門出を汚したままでスタートしたくなかつたという気持ちでやっていたということだつた。本当に感動して、御勅使中の生徒がしっかり育っている、教育の成果が上がっていると感じてとてもうれしかつた。

◎ 学校の施設について

- ◇ 学校施設については、今回の耐震性の問題が、大変遺憾である。確かに市内で最も古い学校施設とは言え、子どもたちの学習環境を考えると早急に何とかすべきだ。未来を創る子供たちを守るはずの大人が、もっとしっかりしなくてはいけないように思う。市や教育委員会も取り組んでくれているようであるが、何の罪もなく、頑張っている生徒たちのことを、是非、重く考えていただきたい。学校からもその声を伝えてもらいたい。また、必要であれば、地域としても協力したい。
- ◇ 学校としてもできる安全対策を積極的に講じると同時に、学習環境が損なわれないように最大限の努力をしていく。教育委員会や市にもお願いをしていく。

◎ 学習活動について

- ◇ 子どもが学校へ行きたくてしかたないという様子が見られて、親としてはとてもありがたく思う。先生方の指導に感謝する。
- ◇ 一部の授業で、子どもたちが不満に思っていることがあつたようだ。評価でもそのあたりが出ていると思う。すでに改善のために動いていると伺つたが、是非しっかりと進めてほしい。
- ◇ 家庭学習についてだが、学校だけの取組ではどうにもならないというのが本当のところだろう。かといって自分自身もあまりできていないので困るのだが……。ひとつ思うのは、小学校と中学校では家庭学習の取組方法に違いがあつて、小学校から上がったばかりの生徒たちは、中学校のやり方がわからないのではないか。小中学校の連携が必要な気がする。例えば、入学説明会のようなことだとか授業の相互乗り入れだとかを6年生の早いうちに実施するなどできないか。今後、できることがないか検討してほしい。

◎ 生徒指導について

- ◇ 今年度は、生徒会が中心となつて携帯電話・スマートフォンに関する取組を進めてきた。PTAにも協力してもらい、各家庭でのルール作りを行った。これらの成果は、学園祭で展示したり、各家庭に配布したりした。その結果、年度の後半は目立つたトラブルが減少している。これからも、保護者の皆さんと連携してこの取り組みを継続していきたい。
- ◇ いくつかの項目で「1」と回答している生徒がいる。この生徒たちへの関わりを大切にしてもらいたい。すでに職員会議でも取り上げて分析しているとのこと。しっかり把握をして、

さらに良くなるように取り組んでもらいたい。

◎ 学校の特色（挨拶、部活動、紅タイム）について

- ◇ あいさつを相変わらずよくしてくれる。今年は、学校に来る機会が多かったが、その度にとってもよく挨拶をしてくれてうれしかった。
- ◇ 校外にいても、相変わらず挨拶をしてくれる。この取り組みは是非とも継続して行ってほしい。

◎ まとめとして

- ◇ 生徒指導が大変で困っている学校もある中で、全体としてみれば、本校は大変好ましい状況にあると思う。今後も職員の方々には、一致団結して学校運営に当たっていただくとともに、一人ひとりの力を高める努力も怠らないでほしい。生徒一人ひとりを大切にして、さらによい学校を作っていくことを期待する。

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会委員長 ㊦